

# 中条氏館跡(熊谷市)


築城年代:長承元年(1132年)、築城者:中条常光

常光院の石碑に記されていた、常光院に伝わる延享2年(1745年)の絵図を基にした縄張図相当/複郭式方形館として描かれ、東西300m・南北150mで外郭の北東部が北へ突出し内郭が複数に区画されている/現在はその大部分が常光院の境内(中央エリア)となっている/上が北





正面は常光院の山門/標柱や説明板等が立っている

 video





標柱には「埼玉県指定文化財 中条氏館跡」、「熊谷市指定文化財 天野氏の墓」と記されている





この石碑の上部には常光院の古図(縄張図相当)が刻まれ、下部には常光院の沿革が刻まれている





藤原鎌足十六代の子孫の判官常光公が長承元年武蔵の国司に任ぜられて下向し、この地に館を構えて中條の姓を用いた。その子有家の長男從四位下中條藤次家長は文武兩道に秀でて、鎌倉幕府の評定衆となり我が国最初の法律である貞永式目を定め、建久三年二月祖父常光公の菩提を弔うためその館を寺とし龍智山ひろしやを寺常光院と名づけた。以来廿五の末寺を有し天台宗の大寺として十萬石の格式で待遇された。

昭和廿六年三月埼玉県は往時上の圖面(の境内地一万八千余坪のうち現在の境内地全域三千四百余坪を、史跡として指定し、文化財として永く後世に伝えることとした。

第四十世現董 小夕保康田しるす



さて、築地塀沿いに左手を見ると、この水路は水堀跡らしい





反対に右手を見たところ





築地塀の立っているマウンドは土塁のようだ





これは築地塀沿いを左手に進み、振り返って右手方向(東方向)を見たところ





反対に西方向を見たところ/築地塀の中は常光院の墓地になっている

[video](#)





これは戻って、山門より東側から水堀跡を見たところ





更に退いて、東側から見たところ/この右手の平場も館跡のエリアのようだ/木々の中が常光院境内





そこで、右手を見たところ/現在、外郭の南辺の水路となっている部分の他に、北辺には浄蓮池川として堀の遺稿が残っているらしい

[video](#)





さて、境内(館内)に入ってみよう





## 埼玉県指定文化財史跡

### 中条氏館跡

指定年月日 昭和二十六年三月三十一日

所在地 熊谷市大字上中条

平安時代末期、藤原氏より出た常光つねみつは、長承元年（一一三二）、中条の地に館を構え中条氏を名乗るようになりました。その孫家長いえながは文武に秀で、鎌倉幕府の評定衆ひょうじょうしゅうとなり貞永式目じょうえいしきもくの制定に加わりました。

中条氏館跡は一万八千坪ほどの長方形で、現在は三分の一が常光院じょうこういんの境内となっています。常光院は建久三年（一一九二）、家長が祖父常光のため館の一部を寺としたもので、土塁や堀に鎌倉時代の居館の姿を見ることができます。

平成十四年十一月

熊谷市教育委員会



境内の参道を進むと、左手に水の溜まった窪みが見える





こんな塩梅/これは何であろうか/水堀と土塁のようにも見える/土塁の左手は池になっている





振り返って見たところ





少し退いて見たところ

 video





そこで右手を見ると、水堀と土塁は折れて右手方向(西方向)に続いている





そして西方向に少し行った先で、ここでも右手に折れている

[video](#)





右手を見たところ/土塁と水堀(右下)/土塁の左手は池





その先も築地塀に向かって続いていた





こんな塩梅

 video





さて、これは境内の西の方にあった「屯倉の礎石」

 video





みやけ

# 屯倉の礎石

屯倉は、弥生時代から大化前代に発達した  
稲穀を収納する倉庫の名で、国が管理し中央  
政府の租税を保管した。


この礎石は、当山東方の「みやけ」という  
所から、大量に発掘された往古の屯倉の石の  
一つで、柱を建てた跡が残っている。







ここは境内から墓地のエリアへと続く西端の辺りにある木橋で、西側から東方向に見たところ/木橋は南北に続く水堀に架かっている

 [video](#)





木橋上で北方向を見たところ/明らかに堀跡のようだ/これらは内郭にあたる折りのある堀と土塁らしい

 video





振り返って、南方向を見たところ/築地塀が見える





その先はこんな塩梅

 video





更にその先を見たところ





さて、ここは「天野氏の墓」

 video





そこに中条氏始祖である中条常光の墓もあった





藤原氏の末裔のようだ





こちらが天野氏累代の墓/立派な宝篋印塔だ





あ天野氏三代の墓







天野赤右衛門尉藤原忠重之墓  
徳川徳川、天保十年、五十五  
寛政二十一年、乙丑、注

天野赤右衛門尉藤原忠重之墓  
天保十年、五十五、乙丑、注  
寛政二十一年、乙丑、注





天野彦右衛門尉藤原忠重之墓 タナシゲ

徳川譜代・直参旗本・五五十石  
初代忍城の城番  
寛永二十一年 没





天野彦右衛門頼常公之墓  
天保九年(1838)建立  
又此墓所は、天保九年(1838)建立  
享和三年二月二十七日 注





天野彦右衛門尉藤原忠詣之墓

タダユキ

大阪兩度の陣に参加し

父の遺跡をつぎ鴻巣御鷹場支配となる

万治三年二月二十七日 没



これが本堂/元禄4年(1691年)再建/熊谷市指定文化財

[video](#)







## 熊谷市指定有形文化財・建造物

# 「じょう常こう光いん院ほん本どう堂」

平成30年3月30日指定

常光院本堂は埼玉県指定史跡「中条氏館跡」に位置し、寛文12年(1672)に唐破風の大玄関が再建された後、元禄4年(1691)に木造平屋茅葺屋根の本堂が建立された。規模は桁行22.5m 梁行17.9mである。茅葺屋根の社寺建築としては県内最大級の規模を誇る。

本堂より発見された棟札には「飯堂」と称される建造物新造の建立年について貞享4年(1687)と記されており、同時期に本堂または新造された建造物の存在を示すものである。

建築様式は、方丈建築の寄棟茅葺、屋根は和小屋構造、屋根構造は竹または丸太の垂木の上に杉皮で覆い、縄、針金の類を用いて茅を葺く技法が用いられている。

常光院本堂は中条氏及び古刹常光院の歴史的経過を今に伝える貴重な建造物として保存されており、内部意匠や建築技術の水準など特筆すべき点も多い。また、調査により判明した内部の梁構造の特色や、茅葺の葺き替えを定期的 to 実施し現在まで壮観な屋根構造を維持している点は、熊谷地域の社寺建築を考証する上で歴史的意義を有するものである。更に、同本堂は上中条地区のみならず北武蔵の地域圏における平安時代以降の歴史や文化を考える上で、常光院の存在価値を明らかにする貴重な建造物である。

平成30年6月

熊谷市教育委員会











竹または丸太の垂木の上に杉皮で覆い、縄、針金の類を用いて茅を葺く技法が用いられた屋根





寛文12年(1672年)再建の唐破風の大玄関





これは境内の西端に鎮座している山王社の赤い鳥居





山王社の右手には鐘楼もあった





金子兜太の句碑





## 参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/502cyujiyo/cyujiyo.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/kumagaisi.htm#tyuuiou>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/17ce730bd5d26a961494949b17a11c6a>

[http://www.kumagaya-bunkazai.jp/kounanmatinoiseki/k39tyuuiyousiyakataato\\_web.pdf](http://www.kumagaya-bunkazai.jp/kounanmatinoiseki/k39tyuuiyousiyakataato_web.pdf)

<https://ameblo.jp/bloodwind-fire-and-steel/entry-12617446544.html>

<http://dougen2013.livedoor.blog/archives/23702946.html>

[http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post\\_909.html](http://castle.slowstandard.com/08kanto/11saitama/post_909.html)

<https://yamashiro2015.blog.fc2.com/blog-entry-2271.html>

<https://lunaticrosier.blog.fc2.com/blog-entry-703.html>



